



日本リハビリテーション病院・施設協会主催

認知症ケア加算
2・3該当研修

看護師のための 認知症ケア講座

超高齢社会を迎えた日本において、認知症の方々の尊厳ある暮らしを支えることは、私たち医療者の重要な使命となっています。2024年1月から施行されている認知症基本法は、認知症の方々への理解を深め、その人らしい生活を支援していくという社会の決意を示すものです。

医療現場において、認知症の方が身体疾患の治療を必要とする際、環境の変化による不安や戸惑いから、治療に困難を来すことがあります。このような状況に対し、病棟看護師をはじめとする多職種による適切なケアの提供が、治療の成功に不可欠な要素となっています。

特に重要なのは、認知症の方の心理面に配慮した予防的なアプローチです。環境調整や適切なコミュニケーションによって、不安や混乱を未然に防ぐことが可能です。それは、褥瘡や低栄養の予防と同様に、「起きてから対応する」のではなく、「起こさないケア」を実践することが求められます。本研修会では、認知症の方の心に寄り添いながら、その人らしさを守る環境づくりと、症状の悪化を予防するための具体的なアプローチを、実践的な演習を通して学んでいただきます。参加される看護師の皆様には、この学びを日々の看護実践に活かし、認知症の方が安心して治療に専念できる環境づくりの担い手となっていただくことを期待しています。

認知症の方への理解を深め、その人らしい医療を実現することは、私たち医療者に課せられた大切な使命です。本研修会が、皆様の認知症ケアの実践力向上の一助となれば幸いです。

【開催日】 2025年12月22日(月)
23日(火)

※2日間通しての受講が必要です。

【会場】 オンライン (zoom)

【定員】 100名 (定員になり次第締め切り)

【参加費】 会員施設：10,000円(税込)
看護師
1名につき 非会員施設：15,000円(税込)

※ 本研修は、診療報酬上の「認知症ケア加算2・3」の加算要件に該当します。

※ 研修中は、出席を確認しますので、必ずカメラ付きの機材で参加してください。

※ 修了証の発行
研修全課程(2日間)を受講された方には、当協会から修了証を発行いたします(後日発送)。
欠席、遅刻、早退、途中退席された場合には修了証の発行はできませんのでご注意ください。

お申込みはこちらから ➡

<https://www.rehakyoh.jp/workshop>

締切日：2025年12月12日(金)



【お問合せ】



一般社団法人
日本リハビリテーション病院・施設協会

E-mail kenshu@rehakyoh.jp (山本)

研修プログラム

[12月22日(月)]

09:50-	zoom 入室開始
10:20-	オリエンテーション
10:25-	開会あいさつ
10:30-	<p>① 認知症の原因疾患と病態・治療</p> <p>看護師も医師とともに、認知症の症状を引き起こす原因疾患に向き合うことが認知症ケアの基本となる。認知症の予防や治療により進行を遅らせることも含め、認知症疾患そのものを知ろう。</p>
11:50-	昼休憩
12:30-	<p>② 入院中の認知症患者に対する看護に必要なアセスメントと援助技術（演習含む）</p> <p>認知症の人に適切な看護を提供するためには、そのファーストステップとして、アセスメントをもとにケアプランを立てることが必要であろう。そのために知っておかなければならないこと、見落としはならないことは何かを考えよう。</p> <p>-----</p> <p>演習：認知症のある患者の事例を提示し、その患者に対するアセスメントの情報として求められているものは何か、また、必要な援助技術は何かを考える。</p>
15:00-	休憩
15:10-	<p>③ 認知症に特有な倫理的課題と意思決定支援</p> <p>身体拘束が認知症の人に与える影響、エンドオブライフの意思確認など、患者、家族の視点に立ちサポートすることを考えよう。</p>
16:40-	<p>終了</p> <p>-----</p> <p>一日の振り返り</p>

[12月23日(火)]

09:20-	zoom 入室開始
09:55-	オリエンテーション
10:00-	<p>④ 行動・心理症状（BPSD）、せん妄の予防と対応法（演習含む）</p> <p>認知症の人をケアする上で一番の問題とも言えるのは、BPSD、せん妄等であろう。しかし、それは認知症の人にとっての問題ではなく、周囲にとって大きな問題であるのかもしれない。ケアのレベルアップによって、これらの問題はどのように変わっていくのかを考えよう。</p> <p>-----</p> <p>演習：BPSD、せん妄の対応の困難事例についてディスカッションをとおして考える。</p>
12:20-	昼休憩
13:00-	<p>⑤ コミュニケーション方法及び療養環境の調整方法（演習含む）</p> <p>どのように認知症の人とコミュニケーションをとればよいのか。その人が暮らしてきた生活環境を大切に、施設内での環境、あるいは地域での環境を整え、より穏やかに過ごしてもらうことを考えよう。</p> <p>-----</p> <p>演習：重度認知症の困難症例等を提示し、コミュニケーションのとり方、医療チームでの対応の仕方などを、ディスカッションをとおして考える。</p>
15:30-	<p>閉講</p> <p>-----</p> <p>一日の振り返り</p>

プログラムの内容は変更となる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

